

令和3年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

| 重点目標 | 具体的取組 | 実現状況の達成判断基準 | 分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等) |
|---|---|---|--|
| 1 国際社会に貢献する人材の育成を主眼として、高い志を掲げ、その実現に向け主体的に努力でき、難関国公立大学等、志望する大学に果敢にチャレンジする生徒を育てる。 | ① 生徒の思考力、判断力、問題解決能力、表現力の育成を目指し、授業力の向上を図る。 | 授業評価において、「授業のねらい」「教員の熱意や工夫」「説明や指示」「考えさせる場面」「興味・関心が高まる」の5項目におけるA評価の平均が A 55%以上 B 50%以上 C 45%以上 D 45%未満 【判定B】 | 後期授業評価において、5項目におけるA評価の平均は54.1%であった。内訳は、「ねらい」55.1%、「熱意や工夫」60.3%、「説明や指示」53.7%、「考えさせる場面」58.9%、「興味・関心」42.7%である。昨年同期(54.0%)からは微増であるが、前期(52.2%)に比べ増加し、判定Aまであと一歩であった。「興味・関心」を高めるよう授業改善に努めていきたい。 |
| | ② 授業や総合的な学習/探究の時間等の活動を通して、生徒が主体的に課題解決に取り組む姿勢を育む。 | 自らの学習について (ア) 授業や課題以外に積極的に取り組み、独自の学習にも取り組んでいる。 (イ) 授業や課題に積極的に取り組んでいる。 (ウ) 授業や課題には取り組むが、自らを高めようとする努力や意識が足りない。 (エ) その場しのぎの学習が多く、極端に悪い成績を取らないように勉強している。 (ア)+(イ)の合計が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 【判定C】 家庭学習時間が学年の目標値に達している1・2年生の割合が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満 【判定C】 | 後期学校評価において、3教科の肯定的な回答の平均は、69%(英語68%、数学74%、国語66%)で前期(68%)からは微増で判定Bまであと一歩であった。1・2年生のうちに主体的な学習について考え、積極的に学習に取り組む姿勢を身につけることにより、基本的な学習や弱点克服、また得意分野を伸ばす発展的な学習に取り組ませていきたい。 |
| | ③ 国際社会において必要不可欠な英語によるコミュニケーション能力を身に付けようとする態度を育成する。 | 2年次12月に受検するGTEC検定版において、CEFR-Jの基準で、A2.2以上の成績を収めた生徒の割合が、 A 60%以上 B 50%以上 C 30%以上 D 30%未満 【判定A】 | 12月のGTEC(検定版)の結果は、B2-1人、B1.2-9人(2%)、B1.1-56人(16%)、A2-2-234人(66%)であった。1年次12月に受けた時から比べると、スピーキング分野の伸びが大きく自分の意見を積極的に表現しようとする姿勢が備わってきている。 |
| | ④ 高い志を持って進路達成に向かう生徒を育て、個々の生徒に応じた進路志望を達成する。 | 合格者数が A ア・イ・ウの3指標すべてを達成 B ア・イ・ウのうち、2指標を達成 C ア・イ・ウのうち、1指標を達成 D ア・イ・ウの3指標とも達成できず ※ア(難関大20名以上) イ(金沢大60名以上) ウ(国公立大200名以上) 【判定C】 | 難関大学14名(現役10名+既卒4名) 金沢大学48名(現役46名+既卒2名) 国公立大学234名(現役218名+既卒16名) 大学入学共通テストの難化や新型コロナの影響により、近県への出願が増加する傾向が見られた。昨年度の浪人数が例年の半数程度であったため、国公立・難関大学の合格者総数は例年並みであったが、現役国公立大学合格者数が増加し、現役難関大学合格者数も良好であった。最後まで志望をあきらめさせない指導が来年度以降も必要である。 |
| | ⑤ 「進学校における部活動」を追求し、学校として生徒が学習と部活動を両立できるよう配慮し、かつ指導を徹底している。 | ・限られた時間の中で効率的・効果的な活動に取り組んでいる部活動が (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【判定C】 ・下校時間(平日午後7時)を遵守している生徒が (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満 【判定B】 | 後期学校評価において、79%の生徒が(ア)と(イ)に答えている。この結果は前期比較して4%低い。低下した原因としては、後期は1・2年生の新チームとしての取組がまだ不十分であると考えられる。しかし、昨年度後期と比較すると2%上昇している。部活動が原則平日1日、土日1日の休業日を実施しており、効率的・効果的な部活動が実施されていると考えられる。 後期学校評価において、94%の生徒が(ア)と(イ)に答えている。この結果は前期89%、前年後期93%と比較しても、改善がみられる。各部活動顧問の指導により部活動後は速やかに下校できている。下校時間の遵守が「文武両道の実践」と「進学校における部活動の追求」として重要な項目であることから、今後さらに徹底していきたい。 |
| 学校関係者評価委員会の評価 | ・NSHだより「夢への飛躍」に掲載されている外国人との交流など体験学習活動を今後も続けていただきたい。 | | |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策 | ・昨年度、コロナ禍で中止となった人文・自然科学コースの県外研修を、今年度は実施できた結果、生徒たちの視野が広がった。来年度も感染防止対策を講じて各種体験学習活動を実施したい。 | | |

| 重点目標 | 具体的取り組み | 実現状況の達成判断基準 | 分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等) |
|---|--|--|---|
| 2 校訓「質実剛健」を不易のものとし、挨拶や感謝の心、規範意識やいじめを許さない姿勢など人としての基本を身に付けた、心身ともにたくましい生徒を育てる。 | ① 登下校指導、街頭指導、挨拶運動を通して規範意識を向上させる。 | ・誰に対しても積極的に挨拶していることについて (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 ・きちんとした頭髪・服装をしていることについて (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 | 後期学校評価において、(ア)と(イ)に答えた生徒は79%（前期79%）、保護者は67%（前期63%）であり、平均は73%となる。生徒自身は挨拶をしている認識はあるが、「誰に対しても」「積極的に」という点について保護者との差があると考えられる。昨年度から新型コロナウイルス対策としてマスクを常時着用しており、挨拶の声も小さくなっている。今年度は各部活動の協力により登校時の「挨拶運動」を実施した。感染防止の対策を施した上で、挨拶による元気で活力ある学校づくりを目指していきたい。 後期学校評価において、(ア)と答えた生徒は60%（前期65%）、保護者は37%（40%）となり、その平均は49%であった。きちんとした頭髪・服装を心掛けている生徒が多い中、実践できていない生徒が一部見受けられる。生徒の変化に気づき、教職員全員が共通理解をもって指導していきたい。 |
| | ② 交通安全教室、自転車マナー・ルール検定、街頭指導等を通して交通ルール遵守の指導を行う。 | ・生徒は自転車に乗車しているとき交通ルールを (ア)いつも守っている (イ)だいたい守っている (ウ)あまり守っていない (エ)ほとんど守っていない (ア)の%が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 | 後期学校評価において、(ア)と答えた生徒は58%（前期59%）となっている。昨年度に引き続き、今年度も生徒の自転車による事故件数及び交通違反件数は少ない。交通事故は一寸の気の緩みで起きるものであり、クラス担任や放送・掲示物等による呼びかけを行い、交通安全に対する意識を高められるように努めていきたい。 |
| | ③ 各課や学年が連携を密にすることによって、生徒の悩み(学習・人間関係・部活動など)が深刻化し、不登校にならないように、相談しやすい環境を整える。 | (生徒用) 本校は悩み(学習・人間関係・いじめ・部活動・健康状態など)を相談しやすい。 (ア)とてもよくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (オ)わからない (ア)+(イ)の%が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 (教員用) 相談課と各課・学年・関係委員会とが連携し、悩みある生徒の早期発見と対策がとられている。 (ア)とてもよくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (オ)わからない (ア)の%が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満 | (生徒用) 後期学校評価において、「よくあてはまる(26%)」「ほぼあてはまる(37%)」と答えた生徒が前期よりも2%上昇した。 (教員用) 後期学校評価において、「よくあてはまる(62%)」「ほぼあてはまる(38%)」と答えた教員が前期よりも3%上昇した。 「わからない(28%)」と答える生徒の割合が多いのは、相談したことがないからだと考えられる。前期より2%減少したが、更に悩みを打ち明けやすい相談室になるように、集会や相談室だよりを通して、周知徹底できるようにしていきたい。 |
| | ④ 面談等を通して、生徒が主体的に自分の生活や時間の使い方を振り返る、自律の態度を育成する。 | スマートフォンの使用時間が1日に1時間以内であるという生徒が A 40%以上 B 30%以上 C 20%以上 D 20%未満 | 後期学校評価において、「スマートフォンの使用時間が1日1時間以内」と答えた生徒は17%（前期18%）と低い割合である。スマートフォンの使用は、毎朝の体調チェックの報告などを含め、多岐にわたる連絡ツールとして使用されているため、生徒にとって身近なものである。しかし、使用上のモラルの問題や学習活動の弊害にも関わっているため、進学校としての使用方法を実践させたい。 |
| | ⑤ 幅広い読書を意欲的に行うことで思考と情操を深め、自らの人格形成に活かす生徒の育成を図る。 | 1冊以上本を読んだ生徒の割合が A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満 | 6月1ヶ月間に1冊以上読んだ生徒の割合は26.6%（昨年25.5%）、9月1ヶ月間に1冊以上読んだ生徒の割合は37.1%（昨年73.2%）、2月1ヶ月間に1冊以上読んだ生徒の割合は27.3%（昨年30.4%）で、3回の平均値は31.4%（昨年43.2%）であった。6月の調査で電子書籍の利用者数も調査しているが、新型コロナの影響で急激に増加しており、その冊数を読書冊数に含めるかが今後の課題である（これまでの調査では紙媒体での読書冊数しか統計に含めていない）。図書館行事を充実させ、学習指導や進学指導での図書館利用を教職員に一層促進することで、生徒の読書への関心を高めていきたい。 |
| 学校関係者評価委員会の評価 | ・学校として、スマートフォンの適切な使用を指導することは大切である。 ・コロナ禍でも学習や部活動をできるだけ継続し、心身ともにたくましい生徒を育てて欲しい。 | | |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策 | ・SNS等での使用は時間を制限するよう指導しているが、学習への使用は有効活用ということで勧めている。 ・休校をできるだけ避けるために、生徒が自覚して行動し、症状がある場合は登校しないようご家庭にも協力を求めている。 | | |

令和3年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

| 重点目標 | 具体的取り組み | 実現状況の達成判断基準 | 分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等） | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|--|--|---------------|----|--------------|------|-----|----|--------------|-----|--------------|------|--------------|---------|-----|------|-----|
| <p>3 校是「文武両道」を実践するため、教職員の共通理解のもと、生徒の主体性、自己肯定感を高め、明るく活気があり、地域から信頼される学校づくりに努める。</p> | <p>① 校長が示すビジョンとリーダーシップのもと、全教職員が組織的に協力し合いながら学校運営がなされている。</p> | <p>業務の平準化に向けた取り組みがなされ、組織的な学校運営が進められている。 (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない</p> <p>(ア)が A 40%以上 B 30%以上 C 20%以上 D 20%未満</p> <p>【判定A】</p> | <p>後期学校評価において、(ア)+(イ)の合計は96%（前期97%）であった。また、(ア)は40%（前期45%）と減少し、(イ)は56%（前期52%）と増加した。 (ア)が増加するように2学期は改善を図りたかったが、新教育課程に伴う学習評価の策定、G I G Aスクール構想に対応した授業改善およびコロナ禍で増加した不登校生徒への対応をはじめとする生徒指導など業務に偏りが生じたことにより実現できなかった。 全教職員が組織的に協力し、業務の平準化、課題の解決等を図っていく。</p> | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <p>② 校内研修会をより充実させ、今日的教育課題の理解とそれに対応しうる教員の資質を高めるとともに、若手教員早期育成プログラムを計画的に実施する。</p> | <p>取り組んだ研修の成果を教育活動の充実に役立てることができた (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない</p> <p>(ア)が A 40%以上 B 30%以上 C 20%以上 D 20%未満</p> <p>【判定C】</p> | <p>後期学校評価において、「よくあてはまる」「ほぼあてはまる」の合計は95%（前期96%）であり、内訳はそれぞれ25%（前期29%）、70%（前期67%）であった。 様々な研修がリモートとなった影響が全体の割合を下げたと思われる。ICTの更なる活用やリモート機器活用の充実など、日々の教育活動に役立つ内容の研修を行っていききたい。</p> | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <p>③ 部活動の活性化を通して、生徒が誠実に学校生活に取り組むとともに、自主性や自立心の育成を図る。</p> | <p>部活動に加入している生徒の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満</p> <p>【判定A】</p> | <p>部活動の加入状況について、運動部は男子80.9%（昨年76.7%）、女子46.7%（昨年43.7%）で合計62.3%（昨年59.6%）であった。また、文化部は男子7.1%（昨年8.1%）、女子50.4%（昨年52.0%）で合計30.7%（昨年30.8%）であった。 運動部と文化部を合わせた部活動加入状況は1年生92.2%（昨年95.0%）、2年生89.5%（昨年81.7%）で全体としては90.9%（昨年88.3%）であった。 部活動の加入状況は昨年より増加しており、学校全体として文武両道を目指す生徒の姿勢がみられる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <p>④ 本校の教育活動に参加する保護者、地域の方々及び同窓生（保護者等）を増やすことによって、生徒の活動の様子を直に見てもらい、家庭及び地域と学校との連携を更に深める。</p> | <p>本年度、下記の本校学校行事に参加した保護者の延べ人数が A 4500名以上 B 4300名以上 C 4000名以上 D 4000名未満</p> <p>行事：PTA総会、桜高祭、学校公開、進路説明会、3S歩行、入学式、卒業式、学校訪問（中学校PTA）</p> <p>【評価D】</p> <hr/> <p>年間を通じての本校ホームページへのアクセス数が A 40万件以上 B 35万件以上 C 30万件以上 D 30万件未満</p> <p>【評価C】</p> | <p>今年度の来校者数は1419名であった。感染症対策のために来校を控えていただいた影響が大きい。引き続き感染症対策を徹底し、保護者および地域の方々に参加できる学校行事としていくとともに、学年便りやメール配信等を利用して本校行事に対する保護者への周知を図り、学校への関心を高めていきたい。</p> <table border="0"> <tr> <td>PTA総会及び学年別懇談会</td> <td>0名</td> <td>1・2年保護者進路説明会</td> <td>401名</td> </tr> <tr> <td>桜高祭</td> <td>0名</td> <td>学校公開(教育ウィーク)</td> <td>43名</td> </tr> <tr> <td>3S歩行(含協力者会議)</td> <td>449名</td> <td>学校訪問(中学校PTA)</td> <td>63名(3校)</td> </tr> <tr> <td>入学式</td> <td>463名</td> <td>卒業式</td> <td>450名</td> </tr> </table> <p>今年度の本校ホームページへのアクセス数は345,385件で、前年度は376,647件であった。コロナ禍の状況においてこれまで以上に迅速に学校行事の情報を提供し、保護者の方や地域の方にタイムリーで充実した内容の情報を発信していきたい。</p> | PTA総会及び学年別懇談会 | 0名 | 1・2年保護者進路説明会 | 401名 | 桜高祭 | 0名 | 学校公開(教育ウィーク) | 43名 | 3S歩行(含協力者会議) | 449名 | 学校訪問(中学校PTA) | 63名(3校) | 入学式 | 463名 | 卒業式 |
| PTA総会及び学年別懇談会 | 0名 | 1・2年保護者進路説明会 | 401名 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 桜高祭 | 0名 | 学校公開(教育ウィーク) | 43名 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3S歩行(含協力者会議) | 449名 | 学校訪問(中学校PTA) | 63名(3校) | | | | | | | | | | | | | | | |
| 入学式 | 463名 | 卒業式 | 450名 | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>4 組織運営・教職員の働き方の改善に対する意識を高め、時間外勤務時間が80時間を超えないように、より効果的な教育活動を実践する。</p> | <p>① 業務を細部まで見直し、会議や組織の運営、業務遂行の効率化、教職員の意識改革を進めることによりワークライフバランスをとり教育活動の向上に努める。</p> | <p>時間外勤務時間を前年度より減少させることができた (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない</p> <p>(ア)+(イ)の合計が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p> <p>【判定C】</p> | <p>後期学校評価において、(ア)+(イ)の合計は76%（前期67%）であった。判定もDからCへと上昇し、ワークライフバランスが図られるようになった。引き続き、意識改革及び教育の質の向上と業務改善の両立を進める。</p> | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>学校関係者評価委員会の評価</p> | | <ul style="list-style-type: none"> 部活動における生徒の活躍ぶりを共有できることは、皆にとって励みになる。 部活動の部員数が3年間で今年度1番多くなった要因を分析し、生徒の加入率の上昇につなげていただきたい。 桜高祭等学校行事に、保護者等が可能な限り参加できるようにして欲しい。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策</p> | | <ul style="list-style-type: none"> 壮行式・表彰伝達式等は、リモートで行っている。また、生徒指導室前の大型モニターでも、一定期間、その様子を放映している。 コロナ禍等で制限された中、よく努力した。生徒間、教員間でのがんばろうという強い意識や、ひたむきに取り組んだことが良かった。 感染防止対策を講じて、保護者が参加できる活動を増やしていく。 | | | | | | | | | | | | | | | | |